

令和3年中における少年非行の概況

1 概況

令和3年中における刑法犯少年の検挙・補導人員は89名で、前年に比べ28名減少しています。

犯罪少年は63名で前年に比べ33名減少していますが、触法少年は5名増加しています。

また、成人を含めた全刑法犯検挙人員に占める少年の割合は7.6%で、前年に比べ2.6ポイント減少しています。

刑法犯少年の再非行率は20.2%、再犯者率は25.4%でした。

(①参照)

2 特徴的傾向

(1) 小学生、中学生の割合が増加傾向

高校生による非行の割合は減少していますが、小学生、中学生の割合は増加しています。

(①参照)

(2) 凶悪犯が増加

少年6名による強盗事件が発生しており、昨年と比べて凶悪犯の検挙人員が増加しています。しかし、窃盗犯は大きく減少しています。

その他の刑法犯とは、凶悪犯、粗暴犯、窃盗犯以外の刑法犯の総称です。

(②参照)

(3) 約4割が初発型非行

初発型非行とは、万引き、自転車盗などの動機が単純で、犯行が比較的容易な非行のことで、繰り返すうちに規範意識の低下を招き、非行がエスカレートする傾向があると考えられています。

(③参照)

(4) 少年の大麻使用が顕著

令和3年中における薬物乱用少年の検挙・補導人員は5名で、いずれも大麻で検挙されています。

令和元年以降、大麻使用が顕著になっています。

(④参照)

(5) 不良行為少年は増加

不良行為少年の補導人員は360名で、前年に比べ44名増加しています。

行為別では、

- ・飲酒 19名 (前年比 -2名)
- ・喫煙 84名 (前年比 -4名)
- ・深夜はいかい 150名 (前年比 +44名)
- ・その他 107名 (前年比 +6名)

で、深夜はいかいが大きく増加しています。

(⑤参照)

(6) 福祉犯被害少年は減少

少年の福祉を害する犯罪被害により保護した少年は39名(うち女子29名)で、前年に比べ3名減少しています。

(⑥参照)

① 刑法犯少年の検挙・補導状況

年次	29年	30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減数
犯罪少年	165	134	108	96	63	-33
触法少年	21	17	12	21	26	5
合計	186	151	120	117	89	-28
小学生割合	5.9%	8.6%	5.0%	8.5%	15.7%	7.2P
中学生割合	26.3%	17.9%	18.3%	15.4%	20.2%	4.8P
高校生割合	31.7%	37.1%	37.5%	35.0%	27.0%	-8.0P
全刑法犯に占める少年の割合	12.1%	11.4%	10.8%	10.2%	7.6%	-2.6P
再非行率	26.3%	30.5%	19.2%	29.9%	20.2%	-9.7P
再犯者率	29.1%	33.6%	21.3%	35.4%	25.4%	-10.0P

② 検挙・補導の罪種別

年次	29年	30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減数
凶悪犯	2	2	4	6	9	3
粗暴犯	18	18	24	17	10	-7
窃盗犯	129	111	71	75	43	-32
その他の刑法犯	37	20	21	19	27	8
合計	186	151	120	117	89	-28

③ 初発型非行の状況

年次	29年	30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減数	
窃盗	万引き	53	59	34	29	14	-15
	オートバイ盗	9	7	1	4	1	-3
	自転車盗	30	22	19	17	16	-1
占有離脱物横領	16	3	4	6	2	-4	
合計	108	91	58	56	33	-23	

④ 薬物乱用少年の検挙・補導状況

年次	29年	30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減数
麻薬等	0	1	1	0	0	0
大麻	0	1	4	4	5	1
覚せい剤	4	1	0	0	0	0
シンナー	0	0	0	0	0	0
合計	4	3	5	4	5	1

⑤ 不良行為少年の補導状況

年次	29年	30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減数
飲酒	23	29	36	21	19	-2
喫煙	218	156	89	88	84	-4
深夜はいかい	407	286	127	106	150	44
その他	225	177	122	101	107	6
合計	873	648	374	316	360	44

⑥ 福祉犯被害少年

年次	29年	30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減数
被害少年	60	54	34	42	39	-3
うち女子	36	37	24	33	29	-4
うちインターネット利用	13	15	10	8	10	2